

「日本基督同胞教会史」研究会

機関紙『同胞』1918年～1919年語りかける 息吹と日本基督同胞教会の最初期について¹

外谷 悦夫

はじめに

日本基督同胞教会とはどういう教会であったのか。個人的なこととなるが、わたしが牧師をしている日本基督教団市川三本松教会が創立100周年を迎える2015年に教会の歴史をまとめる時に感じた疑問であった。同上教会は1915年5月7日に江戸川近く京成電鉄国府台駅南東500m程のところのところに聖書普及員であった比田井貞次郎さんによって千葉県市川町三軒家（現在の住居表示では市川市市川3-21-18）で産声を挙げた。日本基督同胞教会による伝道によるものであった。そして同年10月1日に日本基督同胞教会市川講義所が同上所において正式に設置され、比田井貞次郎さんは伝道師として働きを始めている。後に牧師となり野田教会に移られ牧会をされた。聖書普及員の方が伝道師、牧師になっていく教会とはどんな教会なのか。教会に残されている40年誌、60年誌の小冊子をみても、日本基督同胞教会史²（1963年昭和38年10月20日発行100ページの冊子）をみても、日本基督同胞教会の組織や教職制度に関しては記載がなかった。日本基督教団豊澤教会が保存している日本基督同胞教会の年会記録のコピーがあったので、そこから戦前の教会の記録をまとめていったが教職制度に関しては分からなかった。あるとき、小田原十字町教会に「日本基督同胞教会条例 明治37年2月」と記された謄写版の条例があることが分かり、無理を言って送ってもらい、そこに教職制度の根幹が記されていることを知った。

そのような小さな疑問が溶ける糸口が見つかったとき戒能信生牧師に町中で出会った。「先生、次は日本基督同胞教会について、研究されませんか」と声をかけた。そのことを戒能牧師は覚えておられ、富坂キリスト教センター主事の岡田仁牧師と電車の中で偶然同席され、その話をされたところ、同上センターで研究会を立ち上げることにつながっていった。2019年度に戒能牧師は豊澤教会の原牧人牧師と私に声をかけられ、その準備を進めたがパンデミックとなったCOVID-19の感染が日本を覆ったこともあり2020年度には旧日本基督同胞教会の教会に研究会立

ち上げの声を届けることができなかつた。その中で、準備を進めていくことできた。

COVID-19の感染が少し弱まった2021年6月8日に第1回日本基督同胞教会史研究会を開催した。旧日本基督同胞教会に根を持つ教会に呼び掛け、それぞれの教会が保存している資料の確認を行った。資料日本基督教団豊澤教会が日本基督同胞教会年會記録1~41回(16、17回欠)と機関紙「同胞」108号から275号を保存していること確認した。今回、機関紙「同胞」の最初期について考察する機会を与えられ、読み解いていくこととなった。

なお、この時に原宿教会の石田透牧師から1994年4月29日~30日水道橋の後楽園会館で「同胞の會」(仮称)を開催されたことをうかがった。これは第二次世界大戦後初の旧日本基督同胞教会の合同集會であり、旧交をあたため今後歴史的資料の収集や各自の教会の歩みについて情報交換を続けることを確認しあつたと伝えられている。この會は豊澤教会の定形日呂志牧師(当時)の呼びかけによってなされた。幹事には土橋晃牧師(当時原宿教会)、鈴木省吾牧師(当時市川三本松教会牧師)がなつた。事務局は棟方信彦牧師(当時豊澤教会副牧師)当つた。11教会、21名が参加。土肥昭夫同志社大学神学部教授が「日本基督同胞教会について」と題し講演をされ、J. コール宣教師(UMC、もともとは福音同胞教会宣教師。基督同胞教会に關係夫の深いデイトン市出身)、熊谷繁蔵氏(膳所教会役員會・會計)、小池文雄牧師(甲南教会で50年牧會。ご伴侶の信子さんは日本基督同胞教会牧師であつた故大野義信牧師息女)故土岐健治一橋大学教授(日本基督同胞教会史1963年刊編纂者土岐林三牧師子息)も發題された。なお1995年は関西で開催を予定したが定形牧師の急逝により開催はならなかつたようである³。今回の研究会は上記以来の研究会の發足となつた。

機関紙「同胞」⁴の發行に関して

機関紙「同胞」(以下「同胞」)は1907年(明治40年)に第1号を發行している。前述の豊澤教会が保存しているものは1918年(大正7年)5月31日發行の第108号から1933年(昭和8年)3月10日發行275号までである。これ以降も發行されたのかは確認できていない。欠けている号は次の通りである。110、114、116、118、120、122、123、124、130、133~160(1920年から1922年まで2年間)、162、169、175、176、177、182、189、190、228。1926年2月1日から7月1日まで「伝道」が6号發行され、1926年(大正15年)11月1日204号から1929年(昭和4年)5月1日233号まで「同胞」の「伝道ページ」と題して發行されてい

る。そして「同胞」付録として1929年(昭和4年)6月1日234号から1930年(昭和5年)12月1日250号まで発行されている。なお、「湖光」1925年3月1日26号から1929年(昭和4年)2月1日70号までが一緒にファイルに保存されている。なお、ファイルは3分冊あり第1分冊、第2分冊はA4版。第3分冊はB5版？

第1分冊108号(1918年大正7年5月31日)～193号(1924年大正14年12月1日)
 第2分冊194号(1925年大正15年1月1日)～256号(1931年昭和6年6月1日)
 第3分冊257号(1931年昭和6年7月1日)～275号(1933年昭和8年3月10日)
 「同胞」は「同胞社」が発行元。1907年(明治40年)第1号から1923年(大正12年)4月15日165号までは新山泰治牧師⁵(日本橋教会)が「同胞」の主筆であり編集責任者であった。彼が1907年第7回日本基督同胞教会年会で教師補になったときからである⁶。

1923年(大正12年)9月1日の関東大震災により日本橋教会焼失したため、「同胞」は1923年10月1日発行の第170号と12月10日発行の第171号は大阪で印刷された。1924年2月10日発行第172号から滋賀県大津市膳所にて印刷されるようになり、矢部喜好牧師⁷(膳所教会)が編集の責任を負われた。そのためか、矢部喜好牧師主筆の「湖光」も保存されたものかと思われる。

さて、編集印刷の場所が東京日本橋教会から滋賀県大津市膳所教会に変更になったため「同胞」誌上の広告も東京のライオン、千代田香油・千代田ポマードから滋賀県大津の大工石倉善四郎⁸、メンソレータム⁹が中心となっていく。一番の変化は誌面構成とその内容である。新山牧師が主筆であった時は、いわゆる新聞の体裁を取り、その時々のできごとについて主張を見ることができる。一面は論説に当たるもの。二面から説教、説苑(説の苑意味であろう)、日曜学校、投稿欄、詩苑(詩、和歌、俳句)、教報(各教会報告)、年会案内と年会報告、個人消息、広告の8ページ立て。関東大震災後の「同胞」は機関紙の特徴である日本基督同胞教会の「広報」的側面が表に出てきている。後に論説が一面に記載されるように整えられ、別刷の「伝道」や「伝道ページ」加え、最終的には「はらから」と称する付録のページとなり、特色を出していく。

関東大震災を通し、「同胞」の紙面を見ていくときに登場する人々が変わっていく。日本基督同胞教会を牽引してきた第一世代ともいべき人々(中島錦五郎¹⁰:除名、石黒猛次郎牧師¹¹:召天、新山泰治牧師:牧師を辞め東京の復興につくす、眞山義作牧師¹²:隠退等々)が辞めて、第二世代ともいべき矢部喜好牧師、安田忠吉牧師¹³、有賀鐵太郎¹⁴らが登場してくる。その意味でも関東大震災が日本

基督同胞教会に与えた影響は大きいと思われる。

時代背景

さて、ここで今回取り扱う1918～1919年の機関紙「同胞」の時代背景を確認しておきたい。「同胞」は機関紙ではあるが先述したようにメディアの一つとしてこの時代の事件、思想に取り組んでいるからである。1918年～1924年は日本でいう「大正」時代の中期から後半にあたる。新神学の影響がある中、この期間は藩閥政治から政党政治への移行期であり、第一次世界大戦、共産主義、旧・ソビエト政府府立、流行性感冒（スペイン風邪）の流行、不況、米騒動、朝鮮半島での3.1独立運動、関東大震災から復興、世界大恐慌、満州事変から15年戦争に続く時代である。なお、記載は基督同胞教会の伝道開始の時からとする。使用した年表は「日本キリスト教史年表」（日本キリスト教歴史大事典編集委員会1988年4月刊教文館）であり、必要に応じて日本基督同胞教会関係等を加えた。なお、豊澤教会保存の「同胞」は丁度アメリカにおいて禁酒法が1917年に上院にて可決され、1920年1月16日から1933年12月5日まで施行された時と重なり、「同胞」の記事の中にも禁酒に関する記事が載っている。その意味では教会現場にとっては時代背景の重要な一つである。

1894年8月～1895年4月 日清戦争

1895年10月 日本軍・日本人壮士ら、朝鮮にて大院君を擁しクーデターを起こす。
王妃閔氏殺害

1895年11月 基督同胞教会の伝道が日本において開始された

1896年 アテネにて第1回近代オリンピック開催

1987年 3月足尾銅山鉍毒被害民800余名上京、請願運動開始

1898年 アメリカ合衆国、ハワイ併合

1898年 一夫一婦制成立 民法に重婚の禁止

1899年 第1回ハーグ国際平和会議

1899年7月 改正条約実施（治外法権の撤廃）

1899年8月 文部省より公認学校における宗教教育禁止の訓令（文部省訓令12号）

1900年10月 娼妓取締規則公布（自由廃業を認める） 未成年者喫煙禁止法成立

1901年7月 日本基督同胞教会第1回年会開催
東京市神田区美土代町基督教青年会館

- 1901年 八幡製鉄所操業開始
- 1901年12月 田中正造、足尾鉍毒事件で天皇に直訴
- 1902年1月 日英同盟協約締結
- 1903年6月 内村鑑三「戦争廃止論」を「万朝報」に発表
- 1903年10月 第19回日本組合基督教会総会開催 朝鮮伝道を決議
- 1904年2月 日本基督教会 朝鮮伝道を開始
- 1904年2月～1905年9月 日露戦争
- 1904年9月 与謝野晶子「君死に給ふこと勿れ」を「明星」に発表
- 1904年11月 「平民新聞」に「共産党宣言」を記載（発行禁止となる）
- 1905年9月 日比谷焼打事件 交番、警察署、内務大臣官邸、国民新聞社、アメリカ公使館、13のキリスト教会が襲撃された。戒厳令発令
- 1905年12月 韓国統監府設置（統監に伊藤博文）
- 1907年5月 メソジスト3派（メソジスト監督教会、南メソジスト監督教会、カナダ・メソジスト教会）合同総会開かれ、日本メソヂスト教会成立。監督に本多庸一選出（-6.7）
- 1909年10月 伊藤博文、ハルビン駅頭で安重根に射殺される
- 1910年5月 大逆事件の検挙開始
- 1910年6月 世界宣教会議 エディンバラで開催 本多庸一、井深梶之助、原田助、千葉勇五郎ら出席
- 1910年8月 韓国併合に関する日韓条約調印（朝鮮総督府設置）
- 1911年1月 大逆事件の幸徳秋水ら11名死刑
- 1911年1月 植村正久 大逆事件で処刑された大石誠之助遺族慰安会を富士見町教会で行う
- 1911年2月 徳富蘆花 第一高等学校で「謀反論」と題し講演
幸徳秋水「基督教抹殺論」刊
- 1911年2月 日米新通商航海条約調印（関税自主権回復）
- 1911年3月 普通宣教法案 初めて衆議院通過（貴族院で否決）
- 1911年4月 朝鮮総督府、土地収用令制定
- 1911年9月 「青鞥」創刊
- 1911年12月 日本基督教会同盟成立（会長本多庸一）
- 1912年1月 中華民国成立
- 1912年2月 日本基督教会同盟大会および発会式 神・仏・基の三教会同開

- かれる
- 1912年3月 美濃部達吉「憲法講話」天皇機関説を發表
- 1913年2月 護憲運動（立憲政治を擁護する運動）の群集議會へデモ 新聞社、警察署を襲撃 桂内閣総辞職 大正政変
- 1914年6月～1918年11月第一次世界大戦
- 1914年8月 日本ドイツに宣戦布告、第一世界大戦に参戦
- 1915年8月 第1回全国中等学校優勝野球大会開催
- 1916年1月 吉野作造「憲政の本義を説いて其の有終の美を済すの途を論ず」中央公論
- 1916年 アインシュタイン、一般相対性理論を發表
- 1917年2月 日本基督教会同盟の新約聖書改訳成る
- 1917年11月 レーニン、ソヴィエト政府樹立
- 1918年1月 内村鑑三、中田重治、木村清松ら、聖書の預言的研究演説会を東京基督教青年会館で開き、再臨運動を始める
- 1918年8月 シベリヤ出兵宣言 富山県に米騒動勃発
- 1918年11月 武者小路実篤ら「新しき村」建設
- 1918年 ソ連、教会財産没収、宗教教育禁止
- 1918年～1920年 流行性感冒（インフルエンザ 通称スペイン風邪）日本において死者は45万人になったといわれている
- 1919年3月 朝鮮にて3.1独立運動起こる
- 1919年5月 齊藤勇「或る虐殺事件」（詩）を「福音新報」に掲載
- 1919年5月 中国5.4運動（排日運動）起こる
- 1919年6月 ヴェルサイユ条約調印
この年、ドイツにおいてワイマール憲法成立、第3インターナショナル（コミンテルン）（43年）バルト「ロマ書」
- 1920年1月 国際連盟成立
- 1920年3月 市川房枝ら、新婦人協会を結成
- 1920年5月 日本最初のメーデー行われる
- 1920年5月 日本基督教会同盟 朝鮮問題・青島問題・軍国主義・国際連盟についての宣言書發表
- 1920年6月 高島素之訳「資本論」第1冊刊行
- 1920年10月 第1回国勢調査施行

- 1920年10月 賀川豊彦「死線を越えて」刊
- 1920年10月 第8回世界日曜学校大会 東京で開催(10/5～10/14)
- 1920年12月 大杉栄ら、日本社会主義同盟成立(翌年5月解散命令)
- 1921年 中国共産党成立
- 1921年2月 大本教の幹部 不敬罪で逮捕される
- 1921年11月 原首相、東京駅頭で刺殺される
- 1921年12月 ワシントン会議で日英米仏4ヵ国条約成立し日英同盟廃棄
- 1922年3月 全国水平社創立(京都) 7月日本共産党、非合法に結成
8月有島武郎、北海道の有島農場を小作人に無償解放
この年未成年者飲酒禁止法成立
- 1922年12月 ソヴェト社会主義共和国連邦成立
- 1923年6月 有島武郎自殺
- 1923年9月 関東大震災 朝鮮人らの虐殺起こる 戒厳令発布 基督教震災救護団結成される 甘粕正彦憲兵大尉ら大杉栄、伊藤野枝らを殺害
- 1923年11月 吉野作造「朝鮮人虐殺事件について」を中央公論に発表 日本基督教連盟成立
- 1924年2月 神・仏・基の三教代表者会議開催 井深梶之助、小崎弘道、鵜崎庚午郎、元田作之進ら首相官邸に招かれる
- 1924年4月 アメリカで排日移民法成立
- 1924年6月 築地小劇場開場
- 1924年7月 小作調停法公布
- 1924年9月 朝鮮人及中国人虐殺懺悔祈祷会 東京基督教青年会館で開催
- 1924年12月 婦人参政権獲得期成同盟会結成
- 1925年1月 植村正久没
- 1925年4月 治安維持法公布
- 1925年5月 普通選挙法公布(25才以上の男子選挙権)
- 1925年6月 矢嶋楯子没
- 1925年10月 日本基督教連盟 教会合同の機運促進に関する調査委員会を設ける
- 1925年 カナダ合同教会成立 スtockホルムで信仰と職制世界会議開催
ヒトラー「わが闘争」 ポーランド正教会自立 ルーマニア正教会に総主教座設置

「時代と取り組む情報発信の『同胞』と各教会の動き」

主な動きを取り上げ記していくこととする。

1918年

5月31日 108号 オッターバイン記念号

「オッターバイン記念日！教会は今年迄此大切な一日を閑却して居た、今年か此の一日を記憶しようというのである。是は明(アキラカ)に教会の自覚を意味する。髓(タシ)かに教会の一進歩である。我等が共同の祖先を回想し之を追慕する所以(ユエン)のものは、内自(ウチオノヅカ)ら自己の何物なるかを自覚し来たった証拠である。」このように書き始められ、単にオッターバインを記念するだけでなく、マルテン(ママ)・ベーム(基督同胞教会の使徒ペトロと呼ばれた)を始めとし、ジョージ・アダム・ゲッチング(使徒ヨハネ)、クリスチャン・ニュー・カマー(使徒パウロ)らを記念する日であり、今なお生ける祖先の霊覚と実験を発揚し、私たちの信仰と愛を呼び覚まし、キリストにおける同胞の意識を闡明(センメイ)にするための日である」ことが強調されている。そして6月2日の安息日を以て、オッターバイン記念日として各教会において友愛の説教をなすことが呼びかけられている。総理ジョセフ・コサンドの名によってこの年以降、当日の献金を日本基督同胞教会伝道資金として日本基督同胞教会会計に送ることを実行して欲しいことを広告している。そして第1回年会を開催してから18年たち「成年に達せんとする教会はかくして今後其父祖を記念しその精神を内外に印刻していくことだろう」と記者は語る。この一文は日本基督同胞教会のアイデンティティー確認の意味がある。現在でも日本基督教団京都丸太町では6月第一主日をオッターバイン記念日として記念して礼拝を行っている。

さて、「成年に達せんとする教会」となった日本基督同胞教会は最初の歩みはどうかであったのであろうか。1895年11月アメリカから次の3人が日本に帰ってきた。中島錦五郎。彼をアメリカ基督同胞教会は宣教師として日本伝道の一切を託した。土井操吉¹⁵は中島の勧めで日本伝道に協力することにした。米山梅吉¹⁶はアメリカにおける中島の友人で彼と共に宣教師として派遣されたが、後実業界に転じた。中島はまず京都に赴いて同胞教会日本伝道の全般的計画を立てた。土井操吉は東京京橋区樋町一番地に借家をかりて伝道を始め「基督同胞第1教会」(「東京第1教会」)が設立された(1895年冬)。そして京橋区宗十郎町に移転。熱心な伝道により教勢は次第にあがった。桜井女塾の塾生が参加した。桜井女塾は桜井昭恵と伴侶桜井チカ子の経営する塾であった。桜井はもともと日本基督教会の牧師であっ

だが、この時は牧師を退いていた。チカ子はアメリカ留学中に同胞教会の監督ベルの家に寄居して、その一家の信仰的な生活、あたたかいもてなし、平民的な態度に深く感化されたので、つとに夫妻ともに同胞教会に好意を寄せていたので、塾生をこの教会に出席するようすすめた。土井の後、桜井の紹介で日本組合教会に属していた武田頼夫が、同じく桜井の紹介で福井永瀬があとをついだが、中島錦五郎に関する不幸な事件のため、不振に陥り福井辞任後、解散のやむなきに至った。第2教会（駒井沢教会）は滋賀県草津町の近在駒井沢村に設立された（1896年11月12日）。これはアメリカに留学していた駒井富江が帰国の途、サンフランシスコのホテルで中島錦五郎、土井操吉に出会い、日本に対する伝道の志において互いに共鳴するところがあったためである。富江の父親駒井昇策は医者で全家族が早くから基督教を信じていた。1895年11月帰国した駒井富江と父親の駒井昇策は心を合わせ郷里の救いのために祈った。この時既に組合教会によって駒井村に伝道が行われていたが、手のおよばないところもあり、同胞教会がそれを引き継ぐことになった。この教会は草津に講義所を開設し、働きの重点が草津に移るようになったため、駒井沢の第2教会も自然消滅するに至った。この第1教会の解散、第2教会消滅も中島錦五郎に関する事件が絡んでいたという¹⁷。1903年の第3回年会は中島錦五郎を不品行の故に牧師職を剥奪し教会から除名することを決定している¹⁸。彼は優秀な人であったようである。除名される時は本所同胞教会の牧師であった。その時に後に京都同胞教会の創始者の一人で同教会の牧師となった石黒猛次郎が信徒として在籍している¹⁹。

では、彼に関する事件及び第3回年会記録が記す不品行とは何であろうか。そのことを扱う前に、彼がアメリカから派遣されたいきさつと彼の活動について見ていきたい。先ず名前であるが、中島錦五郎（旧姓入江）と日本キリスト教歴史大事典（1988年8月刊。教文館）は記載し、日本基督同胞教会史と日本基督同胞教会年会記録は中島錦五郎と記している。ところが草津教会「百周年によせて」は入江錦五郎（元、中島）と記している²⁰。アメリカの「キリスト同胞教会史1897」はGeorge K.Irieと伝えている²¹。日本基督同胞教会史（1963年。7ページ）によれば彼は1885年東京の築地メソジスト教会で受洗し、アメリカ留学中に、同胞教会に転じ、デイトン第1同胞教会に属した。ウィーバー監督から按手札を受けている。アメリカ側はこのことをどのように伝えているだろうか。「キリスト同胞教会史1897」の記述をみてみよう。なお、中島の表記は、アメリカ同胞教会史1897に従いIrieと表記する。そのころアメリカの同胞教会は既にアフリカ、

ドイツと宣教師を送り、新たな宣教地として中国か日本を選ぼうと検討していた。採決の結果満場一致で日本に決まった。中国か日本かを考え決断しようとしている間に主はご計画を持って新しい地に最初に足を踏み入れる人を備えられた。その第一は George K. Irie であった。数年アメリカに滞在し、大学院で学びも続けていた。日本生れの日本人で優れた聡明さを持ち目的を達成しようとしていた。彼は日本において社会的地位のある人であった。学年末の試験により Lebanon Valley College (1886年アメリカ同胞教会創設) で荣誉ある Doctor of Philosophy の学位を授与された。1895年9月に開かれたデイトンのマイアミ年会の会議で、彼は必要なキリスト教教理の試験を受け、年会の会員になることを認められ、キリストの福音を説教する許可を受けた。日本の宣教を開拓していく上での管理者に任命された。Dr. Irie がデイトンに居た時に一緒にいた U. Yonayama (米山梅吉) は前途有望な若者であり彼を助ける役割を委任された。さて、日本基督同胞教会史は中島の事件のものと関連づけて最初期の日本に於ける基督同胞教会の姿を描いているが、アメリカの「キリスト同胞教会史 1897」は次のことを記している。主が若い彼らに扉を開き、人々が喜んで彼らの語るところに耳を傾けた。働きは彼らを勇気づけるようにドンドン進んだ。主は他の人々も起こして下さった。その中でまず述べなければいけないのは S. Doi (土井操吉) 牧師であろう。彼は今、東京で積極的に働きをなしている。そして M.Okamoto 牧師が短期間東京第1教会で牧会したことが記されさらに5人、それ以上の学校に在籍している若い学生説教者たち、これらの人々がキリスト福音を語り始めた、と。(ここからメソジスト教会発行の宣教雑誌「The Gospel in All Lands」からの引用を記している)。Mr. Okamoto は専門的な仕事の訓練をアメリカで受けていた人だったが、カリフォルニア州オークランドの小さな日本からの宣教団で回心した。彼はブリティッシュコロニア州のビクトリアでアラスカに接する町ポートシンプソンに誰も顧みることない日本人の移民がいることを知り、冬の始めに、その地に船で出掛け、基督の福音を伝えた。再びビクトリアに戻り、そこを拠点にユニオン、フレイザー・ヴァレイ、ヴァンクーバーに説教しに巡回した。しかし、その時々への支援はあっても、定期的な給料がなく、生活の困窮状態の中で働きを続けた結果、肺を病み、南の温暖なところに移った。命の危険が迫った時、サンフランシスコの友人たちが帰国させた。日本に戻って彼の健康が回復した時、Dr. Irie はアメリカ時代に彼を知っていたので、東京第1教会の牧師になるように話を進めた。1896年11月30日、Okamoto 牧師は召され主にある冠を授けられた、と。

さて、Dr.Irie は1896年10月13日付けの日本宣教のベル監督への手紙に宣教計画と今後の働きを見込み牧師任命を報告している。東京第1教会：M.Okamoto、浅草：K.Okada、本所：S.Tashiro を配置、神田：A.Nakagawa を配置。滋賀県の草津と守山：土井操吉、近江八幡、水口、そして大津（滋賀県の県都）は未決定だが資金が充当次第配置する。静岡県、静岡と浜松、二人を指名しておりできる限り早く配置したい。ベル監督が日本に訪問した時（1896年11月。11月12日には基督同胞教会第2教会：駒井沢教会の教会設立式と洗礼・聖餐式がベルによって行われた）、歓迎と開かれた心に接し大いに勇気づけられた。そして、彼はこの宣教が幸先良く開始されたことを喜び、宣教の将来への充たされた約束と希望を持ってアメリカに戻って来た。さて、Irie の報告を見ると宣教本部に相談することもなく、日本において自由に牧師を求め、宣教地を決めて行くことができたのはどうしてなのか。日本人による宣教を目指したと言われ、そこに同胞教会らしさを見る向きもある。しかし、アメリカ同胞教会の宣教委員会の重要な機構改革があったことが記されている。それは1893年のアメリカ同胞教会の総会で決定された。宣教地の年会が、総会によって選ばれた人以外の人物を加えることを許可するというものであった。しかも、年会よりも上位の委員会と年会は同等の権利を持つことが定められた。これにより Irie は報告をアメリカのベル監督にするものの自由に人と宣教地を選択することが可能であった。なお機構改革の理由は記されていない。資金的な面では、アメリカ国内で自立できていない年会（当時）が11あり、その自立できていない年会の個々の教会が自立している23の年会から援助を直接受けることができると定められた。そこに宣教地のアフリカとドイツの年会、そして働きを始めた日本が加わることになった。この時までアフリカに\$281,181.04、ドイツに\$64,181.14、日本に\$4,530.80が用いられた²²。

中島描いた宣教のスケッチは上記のようであったが、実際はどのように展開したのか。その過程でどんなことが起きたのか。日本基督同胞教会史の記述と合わせ見て行こう²³。

- ・東京第1教会、土井操吉が予定通り第2教会に移ったが M.Okamoto が召されたため、武田頼夫が就任した（元組合教会牧師）。1年後小田原に転任。後任は福井永瀬。しかし中島に関する事件故に教勢不振になり福井辞任（1899年11月と思われる）し、東京第1教会は解散。
- ・第2教会は前述した通り。中島に関する事件故に土井操吉辞任。
- ・本所教会（東京市本所亀沢町1-37）1896年11月開設。主任牧師は中島錦五郎。浅草、

牛込に伝道がなされていた。本所教会はこれら諸教会の連絡所、本部の意味を持っていた。毎日曜日、火曜日、土曜日の午後2時から市内の教職が集い、祈祷・聖書研究・説教などの諸種の集会を催し、互いに報告・奨励・研究・計画に努めた。1897年4月教会内に住み中島を助けていた田代信次（前述の本所：S. Tshiro とと思われる）が辞任。後任に小畑貞家が主任牧師に就任。しかし、中島に関する事件にバプテスト教会に転じた。再び中島が主任牧師なる。1903年中島が除名された後に1904年岡崎義孝²⁴が主任牧師に就任。教勢も順調に進み1905年12月に本所緑町3丁目に土地と家屋を得て移転。

- ・浅草教会 1896年 東京浅草区田町で伝道開始。牧師は中川朝二郎（前述の神田：A.Nakagawaと思われる）。不振のうちに閉鎖された。
- ・牛込教会 1896年 浅草教会開設後間もなく牛込区伏町に開設。牧師は長谷川裕。伝道は土肥修平、塚越クガ子を補助者として相当着実に行われた。中島に関する事件のため長谷川は辞職し、教会も閉鎖。
- ・三嶋教会 1897年5月 田代信次が静岡県三嶋町小中島に伝道を開始したが、その年の10月田代が永眠。後任を得ないまま閉鎖。三嶋町は現在の三島市。すぐ北の長泉町に米山梅吉が養子に入った米山家がある。
- ・日本橋小舟教会 1897年頃から日本橋小舟町で伝道開始。塚越徳三郎が牧師となった。伝道と共に伴侶塚越クガ子と協力して静修女学校を経営。女学校の閉鎖と共に教会も立ち消えとなった。
- ・沼津教会 1897年5月に岡田久次郎（前述の浅草：K.Okadaと思われる）が伝道開始。1913年沼津大火のため会堂が焼失。翌年八幡町に移転。後に香貫町に移転。15年戦争のため会堂焼失。福音教会系の教会と合同沼津岳南教会となる。
- ・静岡教会 1987年6月二番町において伝道が開始され、最初に派遣されたのは菊地平角であった。菊地は熱心な伝道を続けたが1900年に永眠。その後、和田肇が就任し、鷹匠町1丁目に移転し、さらに一番町に移った。15年戦争の末期アメリカの空襲で焼失。当時の寺尾牧師の召集不在中ご家族ご伴侶お子さん達全員爆死された。渡辺晋がシベリヤの収容所生活から帰還し、新会堂の建築、保育園の開設と発展。現在の静岡一番町教会である。
- ・小田原教会 1897年3月8日から4日間同胞教会の教役者会が開かれ、その時に立てられた計画に従い、同年5月武田頼夫が派遣され、十字町4丁目で伝道を開始した。本多彦松、川崎条次郎、田口乙四郎²⁵、藤城歌之助、眞山義作、宣教師ショルティエ（1922年～1927年在留）、高田豊子らが伝道。井上藤蔵、広沢勝彦、

宮内俊三がその後も任についた。現在の小田原十字町教会である。1901年基督同胞教会第1回年会記録に田口牧師の言葉が残されている。1900年秋に就任後、礼拝にも日曜学校にも出席する者は誰一人なかりき。後によやく日曜礼拝に2、3人の出席者あり、日曜学校には9名又は10名の出席ありて出席簿に記名せる者16名を得漸く希望の曙光を認め得たり。外に訪問伝道し居る處を数戸有せり。而して寄付金80錢也と。

- ・松戸教会 1898年 伝道開始。吉田米吉²⁶は計画を立て、前年から諸種の準備を進め同年根本に一軒屋を借りて集会を始めた。基督同胞教会第4回年会記録(1904年)に次のように記されている。「他教会なし。中学はあれど教師の反対を恐れて集会に来らざるは悲しむべきことなり。此町には吉田氏熱心に伝道し居れり。又市川は小さき町なれど兵營あれば其中に吉田氏は成功ある働きをなせり。」当時出席していた松戸中学校の英語教師牧野典次が後に同胞教会の牧師となったことは記憶すべきことである。1935年太田勘次牧師の時に松戸3丁目に土地を与えられて移転。太田は病気のため職を退き、本多釜次郎、金田雄亮が牧師に就任。現在、盛んな活動を続けている。
- ・野田教会 以前キリスト友会(フレンド派)の教会であったが、同派の牧師田口乙四郎が1889年7月、同胞教会に転会すると同時に教会も同胞教会所属となった。しばらく教勢が振るわなかったが1931年小立花勇牧師の時代に会堂の新築がなされた。寺尾彰、田村貞一らがその後を受け、現在も野田教会として活動を続けている。

中島錦五郎がスケッチした静岡の2教会が現在も活発に伝道している。大津にも後に教会ができていく。そこまで中島の見通しがあった事を物語っている。一方で中島が一切を任された1895年から除名される1903年までに12の教会が成立し、そのうち5教会が消滅している。その5教会中、中島に関する事件で2教会が解散と閉鎖となっている。またその影響を受けた教会が2教会。少なくとも4教会が大きな影響を受けた。キリスト教歴史大事典は中島錦五郎の欄で、「四分五裂の状況になった」と書いている。アメリカの「キリスト同胞教会史1924」は「新しい牧師も加えられて、広い視野と調和が想定される状況になった時、Mr.Irieの社会生活を営むための人と人をつなぐ意識が、進んであらたな助けになろうとしている人達への責任(応答性)や彼の品性の欠けのために、せつかな反応を引き起こし解決が難しい困難さをもたらした」と伝えている。宣教を支え継続するために監督者(superintendent)としてA.T.ハワード宣教師が遣わされた²⁷。

中島は1901年の基督同胞教会第1回年会の記録に長老司としてハワード氏を助くる傍ら官立学校の教師もしており、1900年7月中島は三省堂から「英語会話読本」103ページを出版している。そして本所教会も牧会している。人と人とを適切につなぐマネジメントができず、人事が行き詰まり、当然牧師とその家族の生活にも影響を及ぼすことになり、彼の品性も問われ、批判や離反がおきた事件であったようだ。それは、1897年に起った。一切を任されていた管理者としては不品行であったと年会は判断したようであり、牧師職を剥奪し除名とした。

このことの翌年前述のようにA.T.ハワード宣教師は伴侶のメリーと共に来日。1898年～1913年総理として日本基督同胞教会の再建に当たった。J.E.ニップ宣教師(1875～1962.4.21)が1900年に、伴侶のベニ・クライエルと共に日本に来た。3年後の1903年病を得て一時アメリカに帰国。1915年再来日。ここには、モンロー・クリセリウス宣教師の死が再び彼を日本に引き戻したことは注7にも記した。そして1941年まで滋賀県に在住し、その生涯を日本にささげた。J.コーサンド宣教師(1851.10.2～1932.6.5)1885年12月キリスト友会(フレンド派)の宣教師として来日。普蓮土学園を設立。1900年まで同派の監督として伝道に尽くした。日清戦争の是非をめぐり分裂しアメリカに帰国。1901年2月同胞教会の宣教師として伴侶のサラ・アンとともに再来日。コーサンドが同胞教会に加わったことで、岡崎義孝、田口乙四郎、吉田米吉、眞山義作がキリスト友会(フレンド派)から同胞教会の牧師になったことは、再建を担うハワード宣教師にとっても大きな励みであったと思う。日本基督同胞教会第1回年會に名前が記されて入る人達の内3名がキリスト友会(フレンド派)からの転入である。参加者は9名。A.T.ハワード氏、J.E.ニップ氏、J.コーサンド氏、中島錦五郎氏、柴田幸七氏、和田肇氏、水野芳之助氏、田口乙四郎氏、眞山義作氏。実に1/3がキリスト友会(フレンド派)からの人達である。ちなみに、同胞教会に加わった人達は日清戦争を是とした人達であったと日本基督同胞教会史研究会に参加している松戸教会信徒の池田勝則さんは語っている²⁸。このことは日本基督同胞教会草創期から再建期にキリスト友会(フレンド派)の信仰や思考も入って来たことを意味しよう。そして、救世軍士官であった水口豊次郎をコーサンドは同胞教会にすすめて、彼はそれを受け入れた。水口は1903年船橋に伝道を開始した²⁹。同胞教会再建の歩みに、コーサンドは大いに貢献していると言えよう。

さて、1895年の宣教師派遣から6年後1901年第1回年會が開催された。その記録に日本メソジスト教会との合同問題が議題に上がり、合同に対して「一般の

感情は好意を有せり」とある。また、1902年第2回年会では合同問題が先送りされ、1904年第4回年会では1905年アメリカで開催される同胞教会総会において日本の同胞教会並びにメソジスト6派との合同を議することについての動議が岡崎義孝よりなされ、満場一致でこの動議が可決されている。この会で同胞教会の主義方針を明らかにして欲しいとの動議が石黒猛次郎からなされた。ハワード議長はそれに対し次の様に答えている「我が教会の神学及条例に於いては大体メソジストと異なる處はない。その特色とも云ふべきものは全力をつくして人間の靈魂を救ふことである。併し我教会は昔の歴史を以て誇る様の事は少しも必要ない。彼のオッターバインは百年の昔熱心に伝道した。彼は決して教派を作る考えではなかった。只交通不便等の事情により遂に一教派となった。故に今日我教会は如何にして此の日本幾多の亡びんとする靈魂を救いに導かんか之が大切な問題である。」議長はこの大事業をなすには教役者と青年養成の学校、女学校、及び新聞等の諸機関が必要であり、多くの費用が必要して将来を考えるに率先してメソジスト諸派を合併することを望む。救霊事業をなすにあたり緊要のことと信じると述べている。その後、この話は進展が難しかったようで、1915年第13回年会でも美普教会との合同が話し合われている。

長く引用したが、最初期の混迷が長く尾を引いて現実を見ると、事業し易い方向へと向かっていたようだが、本国のアメリカ同胞教会がそれを了としなかったためであろうか合同はしなかった。土肥昭夫³⁰は次のように語っている。「日本のキリスト教は、資本主義の発達にともない、都市中産階級、知識人層の中にその活路を見出し、その教勢はゆるやかに上昇していった。諸教派とその連合体は、それぞれ形態を整え、ミッションより独立するにせよ、協調するにせよ、経済的基盤を確保する努力を積み重ねつつ、組織的伝道を展開していった」さらに「自己保存、自己防衛の本能をよびさまし、組織の管理化、機構化を引き起こした」と述べている³¹。いずれにせよ、日本の基督同胞教会は自らを鼓舞しアイデンティティーを示し新たに進もうとしている。「We Are Brethren.我等は同胞である！」「同胞意識の発揚と今後の同胞教会」と2ページにわたる文面の上部に横に見出しを入れている。このために何をなすべきか。「第一に公同教会(ユバーサルチャーチ)の理想を持たない教会は滅びる」「第二に時代の要求に適せざる教会は栄えない」「第三に何等の特徴を有せざる教派は滅ぶる」我が教会はこの三つの弱点を持っていないことを感謝し「教会の特長が発達した人類同胞の意識と基督による救いの実験即ち其福音主義³²にあることを斷へず自覺して居りたいと思ふ」さらに「オッ

ターバイン記念の日を迎へんとし我等は今後長く此日が教會のペンテコステとして最も靈感に富める日とならん事を祈るものである」と結んでいる。オッターバインの小伝が記されている。

この号には京都基督同胞教会石黒猛次郎牧師が召されたことが2ページにわたり記載されている。彼は教会の牧師とともに慈善団体の健康会を組織して広く会員を募り義金を集め貧者に無料の診察施薬をなしたとのこと。これは彼自身幼児から子ども時代歩行困難であったこと、故郷の島原を出て東京にいた兄を頼り、本所に鐵銚（モクネジ）製作所起こし貧困の中にある女性の就業のためのものであったという。日本基督同胞教会の第一世代を牽引車の一人であった。教報には理事会報告があり、4年間計画拡張運動の件と人事の件が記載されている。本所同胞教会、野田同胞教会、渋谷同胞教会の動向が記載されている。

6月30日109号

日曜学校「教会の前途と日曜学校」と題し矢部喜好が書いている。彼は「同胞」の中で一貫して日曜学校のことを担当している。基督教日曜学校の改善することが急務であると訴える。「日曜学校は到る處好況なり、之ために教会は一種の子ども集会場に化するの観あり」との見方に対し、そのような見方をさせているのは「日曜学校教育に関係している吾人の罪である」と語る。しかし、日曜学校は「工匠の棄てたる石は隅の首石（オヤイシ）」だと主張し試行錯誤をし、その地に適した方法を採用していくことなどを通し、「熱心な伝道者が日曜学校を本位に田舎をやるならば日本教化のめに大なる貢献をなし得ることを信ず。」と反論をしている。次に日曜学校巡回記を大野義信牧師が報告している。日曜学校の拡張運動を名古屋以東で5月8日から18日まで行ったものである。東京の本所教会、原宿教会、日本橋教会、市川教会、船橋教会、野田教会、松戸教会、小田原教会、沼津教会、静岡教会、最後は名古屋教会。教報：渋谷同胞教会、本所同胞教会、野田教会、松戸教会。個人消息。

死亡記事2件、結婚記事1件、堀通夫氏（日本橋教会員）、予備兵勤務演習のため第二師団に入営せらる。

8月20日111号

雑録 船橋同胞教会路傍伝道迫害顛末 路傍伝道により町内屈指の妓楼の長男が進んで道を求め断然其の醜業を廃せんと決心せるを始めとし町内有数の商家の子女が身を挺して伝道学校に学ぶ等甚だ見るべきものがあるに伴い反動を生じ先月来数回に亘りて伝道の妨害を為すものを生じ殊に同町大神宮司千葉健治氏の

如きは牧師の説教を妨害して之を非国民呼ばわりし多数の暴民之に和して或いは投石し或いは罵詈誶し遂には数百の群衆教会に押しかけ来たりて窓硝子を破るが如き狂態を演じ幾度か警察の手を煩わして之を鎮無せざるを得ざる遺憾の結果を見るに至る。… 一般町民に迷惑を及ぼす事を怖れたる教会は去る二日当分路傍伝道を中止し演説会を教会に催した…。 教報 膳所同胞教会：琵琶湖夏期学校、静岡同胞教会、本所同胞教会：7月15日午後7時半商工青年慰安会を開く400余名。一般来会者には小林ライオン、安藤井筒堂、上方屋、森永製菓会社、その他有志寄り寄贈されたる歯磨、カオール、絵葉書、ミルクキャラメル、トラクト、天保銭メタル、聖書等を入れたる慰安袋を配與せし由。渋谷同胞教会：7月21日夜青年会後四季会開催、松戸同胞教会：早天祈祷会報告。詞苑：和歌と俳句 教え子の逝けるに 今もなほ頭かたげて物を見るおもは可愛く眼にみゆるなり 山賀龍夫
本所同胞教会（岡崎義孝牧師）は商工青年慰安会を1916年7月より開始された。

9月15日 112号

講壇 天職 神田基督教青年会館で催される商工15日会に於いて商工徒弟の為に為したる講話の大要である。第一に寛容の徳。更に必要なるは謙遜。第三は正直である。各自が現在為しつつあることを己が天職なることを自覚すれば不屈不撓全力を尽くし奮闘し向上し各（オノオノ）其目的を達せねばならぬ、然して何を為すにも寛容と謙遜と正直の徳を養ふことが必要であると、岡崎義孝の弁。

10月31日 113号

国民精神の危機（第一次世界大戦休戦1ヶ月前）今や戦争の意義は国境の改定、国家の利害にはない。正義と友愛の恢復、世界的精神の建設、文明の完成に存する。…日本の世界に於ける位置は最早日清日露の時とは違う。愛国心だけでは通らない。人類同胞の愛世界的精神が此国民の感激とはならねば新世界のチャンピオンにはなれない。今までの日本人は皇国（ミケニ）の為に死ぬる軍人で足りたが、これからは世界のために死ぬる武人とならねばならない。…今は既に古い時代の国民道徳即ち国利民福主義、富国強兵主義。其等に追隨する御用宗教御用教育が果たして国家の禍いとならねば福（サイワイ）である。噫（アア）時の休徴（シルシ）を知る者は誰ぞ。新山泰治。このことは基督教のことも含め御用宗教御用教育と主張しているのであろうか？

日本同胞教会要報 1919年度特別手当の件 年会より各教師報酬額の三割増、小兒手当一人50銭増加

個人消息 中山鹿次郎氏（渋谷教会牧師）三男雅雄君を失はる。シャイプリー氏³³（宣教師）末子フランク・シャイプリー氏を失はる。

11月 日114号欠

12月15日115号

戦後に於ける基督者の使命(二)…基督の十字架に其精神を新たにしたらざる限り到底人類の根本的結合は望むべからず。…社会主義者の信条によって解決せらるるものにあらず。…基督を偶像にして其奇跡を待たんよりは基督の生命に同化せらるる事の更に優れるを思わずや。新山泰治。

実験 町村長より教会を思う 神崎延太郎 北海道某町村長を13年ほど拝命した方。町村の吏員や住民の補佐其の宜しき得て始めて成績の見るべき者ありと思ふ。教会の発展も亦夫れと同様のものなり。

1919年

2月15日117号

民本主義を超越せよ 民本主義は多くの場合破壊的にして建設の用に堪えず。歴史に見るも其しばしば衆愚政治に陥入り他の勢力に利用せらるる所以のもの茲處(ココ)に在りて存す、と新山泰治牧師は民本主義を批判している。

民本主義は吉野作造³⁴が1916年1月「憲政の本義を説いて其の有終の美を済すの途を論ず」中央公論で公にしたもの。鈴木美南子³⁵によれば吉野は次のように語っている。「民本主義はデモクラシーの訳語であるが『国家の主権は法理上人民にあり』という原則に立つ場合は民主主義と訳するのが適當でも、日本の憲法(大日本帝国憲法)が君主制をとり『法律上の主権は君主にある』とする限り『国家活動の基本的目標は政治上人民にあるべし』という意味で民本主義の訳語を用いるとします。…君主主権下でも、主権運用にあたって君主ほかの国家機関は人民の利幅を政治上の目的にしなければならぬとし、また何が人民一般の利福であるかは人民自身が最もよく判断しうることから、また政治における少数者の権力の乱用を防ぐためにも『主権運用の終局の決定を一般民衆の意向に置くべき』ことが求められます。」…『民本主義が行われるためにさほど高い見識は必要ではない、むしろ少数政治の方が悪政の危険がある』と反論します。³⁶新山の意見は鈴木美南子によれば吉野によって想定内のものだったようである。土肥昭夫は民本主義を「民衆→議会→政府→天皇という政治構造の中に、それ以外の政治権力や機構を非立憲的なものとして排除し、これを政治理論として構築することが彼の民本主義政治論の骨子であった」と述べている³⁷。ただ新山は「多数を主とせず、真理を主とする精神は何處に在っても必要也」と主張する。第一次世界大戦、社会主義、共産主義、日本の政治状況の変化、民本主義、無産階級の人々(ここに

は朝鮮半島出身者も多くいたと思われる) 貧困の問題、等々課題が次々と起こり、福音主義を信じ教会がそれに対してどう対応していくか苦闘していることが論説から読み取れる。

年頭の感想 ミセス・ヘース(渋谷同胞教会付属幼稚園初代園長、千葉県と後に小田原を担当したワレン H. ヘース宣教師の伴侶。1917年~1924年在留。)「キリストの御教に従ひ西洋文明の根本を理解して現代社会の病気を直して行かなければなりません。日本でキリスト教が発達しないのは日本のクリスチャンがクリスチャンとしての自覚がなく道徳においても品性においても未信者を服せしむるだけの力がなからだ(広岡浅子の話から)…。さすがはクリスチャンだといわる様にならなければなりません。」広岡浅子は実業家。大同生命の創業に参画。日本女子大学発起人」日本でクリスチャン少ないのは、個人の道徳、品性の故か。この時代のクリスチャン像がここにあるように思われる。

近来の大説教 清 生 悪性感冒(流行性感冒、スペイン風邪、インフルエンザと思われる)に罹り床に寝ている牧師に書いた通信「火葬場大繁盛の由に候へば聊(イササカ)か心配大いに静養致し居り候(ソウラフ)。折返「火葬場の御心配有之候(コレアリソウラウ)が町谷(チョウヤ)の倉には二百個許(ハカリ)積み重ね有之候も後百個位は入れる餘席有之候間其方御心配無く

不養生可然(シカルベク)と存じ候然し天国に入られぬ恐有之候へば此際御攝養一層の御修養希望致し居り候」。最初皮肉と思われ憤慨されたようであるが「此返書は牧師の親切より出た私に対する頭上の一針で有ると喜んだのである」。「牧師よりの御返書は私の伺った近来の大説教で有った。」

教報 渋谷同胞教会：1月5日礼拝 中山牧師説教「年頭の感」聖餐式司式コーサンド氏。来会者十有六名。同夜6時半からコーサンド師宅にて総会を兼ね四季会を開催。役員の改選を為す…。京都同胞教会：安田牧師昨年8月米国より帰朝し就任せられし以来専心努力の結果着々として健実なる発展を遂げつつあり…。本所同胞教会：1月15日午後6時半商工青年慰安会開催。来会者470余名…。野田教会：1月3日朝7時半新年会開催一同会食を為す。10時過ぎ解散。来会者16名許なりき。

日本基督同胞教会第19回年会報告 1919年3月19日一同24日 滋賀県膳所基督同胞教会教役者会 石山 三日月樋に於いて 信徒大会、日曜学校生徒大会も行われる。

〈註〉

- 1 2022年1月25日に富坂キリスト教センターにおいて行われた第3回「日本基督同胞教会史研究会」で発表したものに修正加筆したものである。なお、人名に関しては、注記がない箇所は「日本キリスト教歴史大事典1988年刊 教文館」から引用した。
- 2 日本基督同胞教会史 1963年昭和38年10月20日発行100ページの小冊子 執筆土岐林三、田村貞一加筆整理。編集委員会：委員長 安田忠吉 委員 有賀鉄太郎、広沢勝彦、木村義夫、小池文雄、中路嶋雄、中村利雄、田村貞一、寺尾章二、土岐林三。
上記編集委員会は初めての日本基督同胞教会の伝道の歩みをまとめる研究会であったと思われる。
- 3 基督教世界1994年11月10日第3534号。
- 4 マイクロフィルムで発行されている『近代日本キリスト教新聞集成』（日本図書センター、1992-1995年）に「同胞」が収録されている。同志社の人文科学研究所の資料室で確認したところ、豊澤教会に保存されているものと欠番が完全に一致しており、おそらくこのマイクロフィルムの原本も豊澤教会の資料であると思われる（日本基督同胞教会史研究会の一員である藤田和也同志社大学神学部3回生、当時・上鳥羽教会神学生による）。確に国立国会図書館に「近代日本キリスト教新集成」が所蔵され、第2期第75巻、第76巻、第77巻に同胞108号から275号まで収められている。
- 5 新山泰治 京都同胞教会において石黒猛次郎牧師に導かれ1903年7月受洗（日本基督教団丸太町教会100年史2004年7月刊、8ページ）。石黒牧師1906～1908年のアメリカ留学中は牧会を助けた同志社に学んだ優秀な伝道者であった（日本基督同胞教会史1963年35,37ページ）。
- 6 「同胞」1923年4月15日発行の165号「記者を罷むるに当たり御挨拶にかへて」。
- 7 矢部喜好（1884.7.4～1935.8.26）福島県山村の材木工場の経営者の家庭に生まれる。1902年会津若松にてセブンスデー・アドベンチスト教団に入信。同教団の神学校で学び、会津若松で伝道。1905年日露戦争に際し、兵役拒否、会津若松刑務所に入れられ、後に看護兵として働く。その後アメリカに留学。オハイオ州オッターバイン大学、シカゴ大学神学部で学ぶ。猩紅熱のためデイトンの病院に入院中、J.E. ニップ宣教師（この時アメリカに帰国中）が病床を訪問。日本の滋賀県伝道を志したモンロー・クリセリウスが時を同じくして、猩紅熱のため1年もたたず大津で永眠（1906年明治39年12月20日）。ニップ宣教師は神の声を聞き、再び日本の滋賀県伝道の召命を感じ、矢部喜好にクリセリウスの死を伝える。このことを通し滋賀県伝道への召命を受けた（日本基督同胞教会史は27ページ）と伝えられている。
- 8 大工石倉善四郎はヴォーリス建築を施行した人とのこと。大津教会平山正道牧師談。
- 9 メンソレータム、近江兄弟社の製品名。ヴォーリス建築事務所とともに1920年W.M. ヴォーリスが設立した。
- 10 アメリカ同胞教会から日本宣教を一任された宣教師。
- 11 石黒猛次郎 1871.1.23～1918.4.14 肥後の国（熊本県）島原に生まれ。上京途中の神戸の旅館主畠中良助、同船した牧師首藤俊之に熱心に説かれ求道心を起こす。1892.5.31 本所浸礼教会にてJ.W. ホワイト宣教師より受洗。同胞教会に転じて本所教会に出席。同志社に学び、アメリカ同胞教会宣教師J.E. ニップが住まう同志社教師館で開かれていた集會に川崎衆次郎と参加し、ニップ宣教師とともに京都同胞教会（後の京都丸太町教会）の創立者の一人となり、同志社卒業後、1902年（明治35年）日本基督同胞教会教師補となり同教会牧師となる（日本基督同胞教会第2回年会記録）。1906～1908年アメリカのデイトン市ボン・ブレイク神学校に留学。帰国後、京都同胞教会の牧師を召されるまで続けた。なお、川崎衆次郎は、日本基督教団

- 小田原十字町教会百年史（1998年12月刊行57ページ）によれば、川崎桑次郎と記されている。1899年7月～9月約2カ月日本基督同胞教会第3代目牧師として苦闘後辞任し、同年9月同志社に入学。同志社卒業後、1902年（明治35年）日本基督同胞教会教師補になり、1907年（明治40年）沼津教会に任命されている（日本基督同胞教会第7回年会記録）。翌年1908年同左第8回年会記録によるとモンロー・クリセリウス宣教師（注7参照）の家族にミルス監督が年会を代表して弔辞を述べ、今井健次郎と共に川崎桑次郎の家族には大野義信が弔辞を述べることが決められた。川崎桑次郎は1907年から1908年4月17日までに召されたようである。
- ¹² 眞山義作 1891年（明治24年）茨城県土浦町フレンド教会における伝道を出発点として1900年（明治33年）日本基督同胞教会に転じ30有余年伝道生活をせられた（「同胞」第165号1923年（大正12年）4月15日の記事より）。なお日本基督同胞教会教師補になったのは1902年（明治35年）である（日本基督同胞教会第2回年会記録より）。
- ¹³ 安田忠吉 1886.12.31～1978.11.20 三重県出身。1905年6月30日、日本基督教会山田教会にて受洗。同年9月肋膜炎を患い回復するも翌年再発し、一時は死を覚悟したこともあった。この時献身を決意し、回復後、同志社神学校で学ぶ。1914年3月卒業、4年間京都同胞教会の副牧師と務め1918年アメリカハートフォード神学校に留学。1918年按手を受け帰国。容疑石黒猛次郎牧師の後を継いで京都同胞教会（後の京都丸太町教会）牧師になる。日本基督同胞教会の幹事、統理を務める。1959年隠退するまで同教会の牧会に尽くした。
- ¹⁴ 有賀鐵太郎 1899.4.1～1977.5.25 東京出身。1917年日本基督同胞教会原宿教会で受洗。同志社大学に入学、1922年卒業。その後、シカゴ大学、コロンビア大学、ユニオン神学校で学ぶ。S.T.M.を得て1925年帰国。翌年同志社大学文学部神学科専任講師。1930年同教授。古代、中世の教会史、教理史を担当。1927年には田中教会（後の鴨東教会）を一時兼任。1935年アメリカのユニオン神学校に再度留学。翌年「キリスト教的人格としてのオリゲネスの研究」で日本人として初めてTh.D.の学位を得、1946年その研究を増補した「オリゲネス研究」により京都大学文学部から文学博士の学位を受けた。戦時下の困難な状況の中で同志社大学神学科主任としてその存続に努め、1947年、大学令による神学部設置に尽力、その初代部長に就任。1948年京都大学文学部に転じ、哲学科宗教学第二講座（基督教学）を担当、学としてのキリスト教学の確立に努めた。1954年の世界教会協議会第2回大会（エヴァンストン）にはコンサルタントとして参加、一時期世界教会協議会（WCC）の信仰と職制委員会の委員として活躍、1965年の第2ヴァティカン公会議にプロテスタント・オブザーバーとして出席した。
- ¹⁵ 土井操吉 サンフランシスコにおけるメソジスト派の日本人教会の牧師をしていたが、中島錦五郎の勧めにより日本での伝道に協力するようになった（日本基督同胞教会史7～8ページ）
- ¹⁶ 米山梅吉 1868.2.26～1946.4.28 江戸芝田村町に生まれ、静岡県三島市の旧家米山家の養子となる。沼津中学で学ぶも上京し、東京英和学校（後の青山学院）に1年学ぶ。サンフランシスコの福音会寄宿舎に奇遇し、渡米中の本多庸一と出会う。福音会ハリス監督の推薦でウェスレアン大学に入学、後にシラキュース大学で学ぶ。ウェスレアン大学からM.A.の学位を受け、1895年中島とともに帰国。年明すぐに勝海舟に師事。「提督彼理（ペルリ）」を出版。勝海舟の題字。10月に米山はると結婚。日本鉄道会社に入社。1897年三井銀行に入社。取締役。1924年三井信託株式会社創設し社長に挙げられる。日本ロータリークラブを組織。青山学院の拡張を財政的に支援、初等教育機関開設にも財政的に、そして青山学院内に別個の小学財産を設け経営をし、青山学院緑岡小学校校長となった。伴侶のはるも附属幼稚園経営した（インターネットにより公開されている米山梅吉記念館の「年賦」「奉仕の米山梅吉」も参照にした）。

- 17 日本基督同胞教会史 7～13 ページ
- 18 日本基督同胞教会第3回年会記録 1903年明治36年7月10日日本橋基督同胞教会にて開催された。前年1902年9月に中島錦五郎の尋問委員会が設置され、第3回年会に除名する決議の報告書を提出した。日本基督同胞教会条例第4章第3項(5)には控訴権が保証されている。中島はこれを用いなかったようである。
- 19 日本基督同胞教会史 1963年 16 ページ
- 20 日本基督教団草津教会 百周年によせて 草津教会創立100周年記念誌編集委員会・編 2000年9月発行。231～232 ページ。
- 21 History of The Church of United Brethren in Christ. By Rev. Daniel Berger, D.D. Dayton, Ohio United Brethren Publishing House W.J. Shuey, Publisher 1897 448 ページ。
- 22 同上書 447～451 ページ
- 23 日本基督同胞教会史 7～22 ページ。
- 24 岡崎義孝 1874.2～1935 水戸に生まれる。キリスト友会(フレンド派)に属し、同派の「聖愛学校」に学ぶも日清戦争是非をめぐりキリスト友会は分裂。岡崎は脱退。伝道補助費支給打ち切り。1899年同胞教会に転じた。青山学院で神学生をしつつ1902年には本所教会仮牧師に就任。1934年隠退するまで同教会のために尽くした。1923年の関東大震災では2児を失っている(松戸教会年表を参照にした)。
- 25 田口乙四郎 キリスト友会(フレンド派)に属したが1899年日本基督同胞教会に移る。当時牧会していた野田教会も同胞教会に属するようになる。日清戦争に対するコーサンド宣教師の影響が強かったと野田教会100年史(1999年7月刊)26ページは伝えている。小田原十字町教会百年史51～76ページは次のことを記している。小田原教会は武田頼夫牧師7ヶ月で辞任、本多彦松牧師1年11ヶ月で教会を去り、川崎条次郎牧師約2ヶ月で同志社入学のため去る。武田牧師は浸礼教会の夜の集会、美以教会の祈祷会に出席するなど交流を持ったが、本多牧師の時代に交流が閉ざされ、近隣の牧師に排撃された。田口牧師にとって最初の大きな仕事は近隣教会との和解であり、関係修復を図ることであった。一番辛い時コーサンド教師(宣教師)が巡回せられたり。コーサンド宣教師は時に応じた支援をされ、伝道困難にある牧師たちを励ました。
- 田口乙四郎牧師は8年5ヶ月の間に少年共励会の組織化、日曜学校の充実、万年町講義所を開設など小田原基督同胞教会を再建した。辞任前1年間は病気のため、長い間礼拝説教を休まざるを得ない事態に追い込まれ、最愛の子どもを失っている。
- 26 米田米吉 キリスト友会(フレンド派)に属し、岡崎義孝、田口乙四郎とともに聖愛学校で学んでいたようであるが同派を脱退。同上の岡崎同様自給生活へ。筆作り職人であった吉田米吉は筆屋で生活費を得ながら伝道活動に従事。1897年か1898年同胞教会に転入したようだ。この後、同胞教会の牧師として各地の教会を牧会した(松戸教会年表を参照にした)。
- 27 History of The Church of United Brethren in Christ. By A.W. Drury The Otterbein Press Dayton, Ohio 1924 605～606 ページ。この記録では米山梅吉の名前は記されず、「アメリカに滞在していた別の日本生れの日本人」となっている。
- 28 2022年1月25日、第3回日本基督同胞教会史研究会での対話の中から。
- 29 日本基督同胞教会史 35 ページ。
- 30 土肥昭夫 1928.1.6～2008.3.31 兵庫県出身。同志社大学卒業後、京都大学文学部、ユニオン神学校に学ぶ。同志社大学神学部教授、同名誉教授を務めた。日本プロテスタント・キリスト

教史、天皇制とキリスト教について研究した。

- ³¹ 土肥昭夫著「歴史の証言」2004年刊教文館 369-370ページ。
- ³² 福音主義 (Evangelicalism) : 18世紀のイギリスにいける J. ウェスレー (John Wesley) の信仰復興運動、18、19世紀のアメリカにおける大覚醒運動由来するもので、それぞれの地域の反キリスト教的思潮や教会の形骸化に対する反動として起こった。日本にきた主要教会の宣教師やキリスト教主義教育家はこのキリスト教理解を伝えた。それはイエス・キリストの死と復活による救いを聖書に基づいて信じ、告白する立場である。よくピューリタニズムが導入されたといわれる。それは間違っていないが、正確ではない。ピューリタニズムの最盛期は17世紀であり、その伝統は残っていないわけではないが、英米の海外伝道を支えたものは福音主義である。同上書 12～13ページ。
- ³³ B.F. シャイプリー 1880.1.18～1956.6.19 1909年から1940年まで同志社大学神学部で宗教教育学の講座を担当。音楽にも素養があった。
- ³⁴ 吉野作造 1878.1.29～1933.3.18 宮城県古川町出身。1898年7月4日仙台浸礼教会で洗礼を受ける。1904年東京帝国大学政治学科卒業。海老名弾正牧師の本郷教会(現在の弓町本郷教会)に属した。「新人」の編集記者。ヨーロッパに留学後、1914年東京帝国大学教授。「中央公論」誌上に活発な評論活動を展開。民本主義の唱導者として活躍。1924年東京帝国大学辞任。朝日新聞社に入社。筆禍のため退社。以後、東大講師として明治文化史の研究に努めた。安部磯雄らと社会民衆党樹立の提唱者となり、1932年社会大衆党結党とともに顧問に就任。
- ³⁵ 鈴木美南子 1942年福岡県生まれ。国際基督教大学教養学部卒業。同大学院教育研究科博士課程修了。現在、フェリス女学院名誉教授。同学院150年史編纂実務委員長。
- ³⁶ 「植民地化・デモクラシー・再臨運動」キリスト教史学会編2014年8月刊、教文館 124-125ページ。
- ³⁷ 土肥昭夫著「歴史の証言」2004年6月刊、教文館 389ページ。